

『みなさんお元気ですか?』

大敬先生囲んでの元気アップ禅の会二十周年
でお目にかかった全国から集まった方々を、今
ぎゅーとハグしたい気持ちで一杯です。今度再
開した時は、ぎゅーと抱きしめてしまいかもし
れませんので、ご注意ください。そしてまだお
目にかかっていないしあわせ通信の読者の方々、
どのような素敵な方がいらしゃるのだろうかと。
いつ、お目にかかれるのかしらととても楽しみ
にしています。禅の会のぬくもりで、ひとつい
のちの心地よさを感じています。

始まりは、古賀さんからの一通のメール

「予想は予想です。台風それちゃうかもしれない。ただ、もうダメたーってなる瞬間は、向こうからやって来る時だけにして自分では、諦めんでほしいんです。私は、この二十年間トラブルに対して、立ち向かうのではなくて、どこかに出口があるはずといつも今出来る方法と手段を探してきました。そしたら、道は見つける事が出来るんじゃないかと思えます」

「あつ、これだ」心にズシーンと響きました。
「信じる」ってこういう事なんだって。「信じる」
ってよく言葉では使いますが、「何だろう?」つ
て。ずーと思っていました。信じているつもり
が、人に対しても自分に対しても何かあれば心
がぐらつくからです。

超大型台風が九州を直撃した後、四国にも上
陸とのニュースが流れる中、覚悟を決め一階に
ある車庫の荷物を全部二階に上げました。私の
家は坂本竜馬が泳いだ鏡川に面しており、大潮
で大雨の時に、一階の車庫に水が入る場合があ
るからです。おまけに、夫は東京出張。でも行
動を起こし、列車に乗ると「できることはやる、
後はお任せ」とふらふらしていた心が次第に固
まっていきました。

実は、二十周年の禅の会の二日前、不思議な
体験をしていました。私は漢方の薬房を営んで
おりクロレラ工業の製品を扱っています。この
会社はとても素晴らしい会社で勉強会は製品の
アピールではなく、情熱や感動や勇気や人間力
を養う勉強会を開催してくれます。その勉強会
である作家さんの講演があったのです。当日、
私の乗った飛行機が遅れたので、開始時間に間
に合わず、会場の後ろのドアをそつと開けると、
ドアの先に出番がまだのその作家さんが坐って
いて、瞬間目が合い、にっこりして下さったの
ですが、その微笑みの奥にある何か、私が経験
したことのない深い闇のようなものが胸に飛び
込んできました。凝縮された痛みのようなものが
胸に刺さったのです。その作家さんも感性がと
ても鋭い方なので、私と目が合った瞬間に私の
内面も同時に感じたのだと思います。闇と光の
スパークみたいなものが二人の間で走りました。
そして講演中、相手の事を分かろうと溶け合う
部分と未知の部分との交錯。三十人足らずの内
輪の講演だったので、講演後時間を取ってくれ
ていました。その作家さんの本の話題やクロレ
ラ製品を通しての「いのち」の話題を司会者が
誘導し、参加者に意見を求めました。皆さん作
家さんの講演に感動ですぐには言葉がでなかつ
たので、私に振られました。

世間一般の多くの方は、薬が病気を治すと思
っていらっしゃるのですが、私は少し違ってい
て、クロレラでも、漢方薬でも食事でも「いの
ちの乗り物」だと考えています。私たちの身体
に入ったものは、私たちのいのちと混ざり合い
溶け合ってわたしたちのいのちを輝かしてくれ
ます。病気が治るとか治らないではなく、私に
できることはもちろんその方にぴったりの処方
をすることですが、その上に「どうかその方の
いのちが輝きますように」と祈る事、お任せし
かできないと思っっているのです、そのような事
を話しました。その時、「深い闇をあがいていない

人が光を語る事なんてできない」みたいにかんじたのです。

仕事柄、お医者様で治療の施しようがない方が、苦情を少しでも楽に、あるいは何か治すものはないかとお越しいただく事があります。そのような苦しい体験もない私が、どの様な言葉や励ましをしたとしても心に届かないのではなにか？と自分を追い込んでいた部分があったので、そのような受け取り方をしたのかもしれない。その様な思いを心の片隅に抱いての二十周年参加。

大敬先生と古賀さんが立ち上げられ、ひとつのちの輪が拡がりがり、それぞれの個性が輝き、みんなの思いが、ぎゅーと詰まった禅の会二十周年。その場に心地よく浸らせてもらって何かを頂いたようです。禅の会から帰った次の日夕食の買い出しに自転車、走らせていると、突然何にもないのに不安感が襲ってきたのです。何に対する不安というでもないのです。秋だからかしら？更年期？分析してみても心当たりはないのですが、何とも言えない深いもの淋しさというか表現できない不安感。その瞬間お客さんの○○さんの症状だ。○○さんこんなのが続いておられる。これはきついと感じつつ、なんだか思考がパンクしそうになりつつ、これって困いが少しずつ取れてきて、他の方の思いをほんの少しだけれど感じさせてもらっているのかしらと、涙が出てきました。

そして、私は私で良いと。大きな闇の体験も光りの体験も大小はないのです。他の人と比べると小さな出来事でも私には精一杯の出来事で右往左往してきて、おろおろしながらも、今ここに全体重をかけてきたはずだと。自分という困いがほどけ拡がり始めたのなら、お互い闇も光も共有。全ての人も物もいとおしい。痛みも歓びも溶け合っている。困いの枠が広がるごとにちよびりチクツと痛みはあるかもしれないげ

れど、進むしかない。いや進みたい。

「諦めず、どこかに出口があるはずと、いつも今出来る方法と手段を探して」

今私の心には途絶えることのない「信じる」という灯がともっています。

「大敬先生を囲んでの元気アップ禅の会二十周年」に参加させて頂き、二十年間培われたお一人お一人の個性とそのハーモニーにたくさんのお事を学び、感謝と、湧喜を頂きました。あの場所であの一時を共有できた素晴らしさ。誰一人が欠けてもあの雰囲気は創り出せない素敵な演出を下さった

大敬先生、古賀さん、九州の禅の会の皆様そして、全国から集まった禅の会の皆様に心からお礼申し上げます。

またお目にかかれる日を心待ちにしております。ありがとうございます。

追伸

古賀さんは、みなさんが無事来られるように交通機関の情報を頻繁に送って下さったり、お家を解放して前泊できるようになさったり、開催場所の旅館に早く到着したメンバーを受け入れてくれるよう手配したりと奔走なさり、前日はほとんど寝ておられなかったと思います。この覚悟に台風さんも進路をずらさなくてはならなかったようです。

感謝

小野さゆり